

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（令和3年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県文化財団		
所在地	静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号	設立年月日	昭和59年5月22日
代表者	理事長 鈴木 壽美子	県所管課	スポーツ・文化観光部文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	昭和59年5月 財団法人静岡県文化財団設立 平成25年5月 公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ(指定管理)		
団体ホームページ	http://www.shizuoka-cf.org/		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	900,000	86.1
県内35市町	100,000	9.6
県民募金等	1,710	0.15
期末評価益	43,473	4.15
基本財産(資本金)計	1,045,183	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	41
うち県OB	1	うち県OB	1
うち県派遣	0	うち県派遣	6
非常勤役員	18	非常勤職員	5
役員計	19	職員計	46

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与することを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、ふじのくに文化振興基本計画の重点施策として位置づけられている「子どもが文化と出会う機会の充実」「多様な価値観を表現し、尊重する環境づくり」「創造活動の実現と環境づくり」「文化資源の発掘と創造活動による地域の魅力向上」「地域・社会の様々な課題への文化力の活用」「文化を支援する機能の強化」を推進することを目的とする。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会 経済環境の変化や 新たな県民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活様式」などに対応した新たな事業手法の取組が求められている。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により活動自粛を余儀なくされていたアーティスト等の活動再開に対する支援が求められている。 ・イベント参加人数の上限設定等、これまでどおりの事業及び施設運営ができないことを前提にアフターコロナを見据えた取組の検討が必要となっている。
行政施策と団体活動 との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、ふじのくに文化振興基本計画では県の文化振興の中核組織として重点施策推進の担い手に位置づけられている。 ・財団は、県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの管理運営を担い、平成18年度からは指定管理者としてグランシップを拠点に多彩な文化振興事業を展開している。
民間企業や他の団体 との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩で、上質な文化芸術に触れる機会を作り出すため、伝統芸能や県民参加型の事業等、民間では採算ベースに乗らない事業を展開する。 ・県域を対象に文化資源の存在や価値の掘り起こし、地域の文化団体等への助成、顕彰を実施していく。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R2 決算	R3 予算
自主事業	文化芸術の振興事業 (地域文化活動団体顕彰事業)	新たな地域文化の創造を目指し、県内各地で多彩で優れた文化活動を展開している団体を公募し、顕彰する。	694	700
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/ふじのくに文化プログラム推進助成)	国が全国的に推進する「文化カプロジェクト」を推進し、県内の多彩な文化芸術活動や、「ささえる」活動を発展・継承し、県内外に発信するため、文化団体等に対して助成する。	2,467	940
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/魅力的な文化力発信)	県内の文化資源の存在や価値を再発見し、文化プログラムの推進につなげるとともに、県民の共有財産として、後世に伝えていくため、書籍を発行する。	2,263	9,766
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/中高生芸術鑑賞交通費支援)	文化プログラム推進の一環として、静岡県内の中高生に上質で多彩な文化芸術に触れてもらうため、グランシップ企画事業の鑑賞に要する交通費を全額支援する。	0	5,500
自主事業	グランシップ友の会事業	県民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、グランシップ企画事業への参加を促し、チケット販売に役立てるため、「グランシップ友の会」を運営する。	1,365	2,700
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化プログラム事業)	文化プログラムの推進に資する文化芸術公演の制作、上演を行う。	2,659	9,390
県委託	文化芸術の振興事業 (子どもが文化と出会う機会創出事業(音楽))	県内に活動拠点を置くプロオーケストラ団体を活用し、県内各地で音楽プログラムやコンサートを実施する。	59,815	59,270
県委託	文化芸術の振興事業 (グランシップ企画事業)	県民の文化創造発信拠点であるグランシップを中心に、「上質で多彩、そしてより身近に」を基本として、質の高い公演の招聘や、自ら企画制作する企画事業、催事情報提供事業を実施する。	117,276	228,617
県委託	文化芸術の振興事業 (その他の文化支援)	ふじのくに文化情報センターを設置し、交流・研修の場づくり等、県内の文化活動を側面的に支援するとともに、グランシップ企画事業を活用した人材育成に取り組む。	4,395	1,383
県委託	グランシップ管理運営事業	施設の適正な維持管理及び貸館業務等の円滑な運営を通じて、各種文化振興事業の拠点施設を運営するとともに、文化、芸術、学術及び国内外との交流のための施設の貸与事業及びその他の付帯事業を推進する。 令和2年9月以降の県特定天井改修工事等修繕工事中も適切な管理運営に取り組む。	811,165	1,013,829
県補助	ふじのくに#エール アートプロジェクト事業	コロナ禍で活動の場や機会を失っているアーティストに新たな取り組みでの公演活動を行う支援助成を行う。	64,860	55,140
県補助	アーツカウンシル運営事業	文化芸術の力を活用して地域社会の活性化を目指す県民主体の活動を支援し、創造的で感性豊かな地域社会の形成を促進するため「アーツカウンシルしずおか」を設置し、アーツカウンシル運営事業として令和3年度から本格的な活動を開始する。	9,370	146,000
合 計			1,076,329	1,533,235

5 事業成果指標

令和2年9月8日から令和3年2月28日まで全館休館、3月一部休館

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H30	R1	R2	評価	
入館者数 (人)	700,000	700,000	700,000	C	700,000 (毎年度)
	590,327	635,805	39,417		
企画事業入場者数(文化支援を含む) (人)	130,000	130,000	130,000	B	130,000 (毎年度)
	137,755	126,108	117,832		
企画事業子ども学生鑑賞者数 (人)	5,500	5,500	5,500	C	5,500 (毎年度)
	8,397	7,681	305		
企画事業における満足度 (%)	90	90	90	A	90 (毎年度)
	94.2	95.1	96.8		
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応) (%)	1	1	1	A	1 (毎年度)
	0.11	0.04	0.01		
企画事業における県民参加者数 (人)	2,500	2,500	2,500	C	2,500 (R3)
	2,601	3,088	402		
コンベンション開催件数 (件)	45	45	45	C	45 (毎年度)
	40	47	8		
友の会個人会員数 (人)	10,000	10,000	10,000	A	10,000 (R3)
	10,096	11,322	11,680		

*評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H30	R1	R2	評価	
サポート企業数(協賛、協力、法人会員等、団体も含む) (社)	100	100	100	C	100
	140	136	28		(R3)
サポーター人数 (人)	180	180	180	B	180
	175	171	154		(毎年度)
インターンシップ受け入れ人数 (人)	25	25	25	C	25
	27	25	8		(毎年度)
施設稼働率数 (%)	84.0	84.0	84.0	C	84.0
	84.6	78.2	31.4		(毎年度)
施設管理瑕疵に起因する 事故件数 (件)	0	0	0	A	0
	0	0	0		(毎年度)
催事開催支援サービス取扱件数 (件)	1,800	1,800	1,800	C	1,800
	2,615	2,173	189		(毎年度)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数や企画事業入場者数の目標は、半年に及ぶ全館工事休館やコロナ禍での臨時休館、出前公演の中止や延期により、到達できない環境下であった。 しかしながら、感染対策のうえ入場者数を削減して可能な範囲で企画事業を実施し、また、全館休館中も工事影響がない地下施設を一部利用可能にするなど臨機応変な対応を行った。 「トレインフェスタ」や「音楽の広場」などコロナ禍の影響により中止した企画もWEBでの参加企画を実施して文化財団との繋がりを継続した。 県内の文化芸術活動を様々な面から支援する「ふじのくに文化情報センター」では、コロナ禍での県緊急支援事業「ふじのくに#エールアートプロジェクト事業」を受託し、文化芸術の表現者等の相談や公演助成による活動支援を行った。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、14項目中4項目の達成にとどまったが、これは、工事に伴う全館休館、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休館や施設利用のキャンセル、企画事業の中止・延期など、施設管理者の不可抗力によるものである。 上記の事由の影響を受ける項目を除く6項目を評価対象とした場合、数値目標達成状況は8割以上であった。 徹底した感染予防対策の結果、施設において感染者が出なかったこと、中止・延期となった企画事業についてWEB企画により多くの閲覧者を得たことは、評価すべき点である。 R3からアーツカウンシルが本格稼働したことで、文化芸術活動への支援が充実したため、従前の文化振興と両輪で、本県の文化の発展を支えていただきたい。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> ふじのくに文化振興基本計画(静岡県文化振興基本計画)の第4期計画において、県の文化振興の中核機関として施策展開の重要な役割に位置づけられている。 「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」等の施行により役割が増しているグランシップの第1～3期指定管理者であり、現第4期指定管理者である。 全館休館中はコロナ禍においても他文化施設を活用して実施した出前公演やWEB活用により、県内全域での文化芸術の交流の場づくり等、積極的に県内の文化活動を支援している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 文化財団は本県の文化振興と文化振興施策推進における役割を担う県内唯一の公益法人であり、平成30年度からの第4期静岡県文化振興基本計画においても、重点施策の主な具体的取組として、文化財団による企画事業やふじのくに文化情報センターなど、文化政策推進上の文化財団の役割が明確に位置付けられている。 ふじのくに文化情報センターのノウハウは、R3から「アーツカウンシルしずおか」へ継承され、今まで以上に本県の文化の発展にとって重要な存在となっている。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの以外)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
他団体との役割分担を整理 (H23)	○ <ul style="list-style-type: none"> 契約職員のプロパー化による組織力の向上 コロナ禍における各種対策に応じた内容で、いち早くあおぞらコンサートを企画・開催することで県内他文化施設へ事例を示した。 	○ <ul style="list-style-type: none"> 県派遣職員数は必要最小限とし、職員のプロパー化を推進している。 県派遣職員数 (H23:7人→R3:6人 R2:4人→R3:6人 +2人はアーツカウンシル新設に伴うもの)

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区分	H30 決算	R1 決算	R2 決算	評価	備考（特別な要因等）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	-7,046	-29,920	16,343	A	コロナの影響による事業の中止や延期
	経常損益 (a+b-e-f)	-8,046	-29,920	16,343	A	コロナの影響による事業の中止や延期
	公益目的事業会計	-19,213	-108,613	12,540		
	収益事業等会計	11,167	78,693	3,803		
	法人会計	0	0	0		
	剰余金	325,970	296,051	312,394	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	H30 決算	R1 決算	R2 決算	主な増減理由等	R3 予算	
資産の状況	資産	1,612,285	1,551,611	1,533,655		-
	流動資産	281,990	223,323	235,469	R2特定資産取崩事業の中止・延期で執行がR3となったことによる増	-
	固定資産	1,330,295	1,328,288	1,298,186	特定資産取崩額の減	-
	負債	228,667	205,730	176,078		-
	流動負債	203,091	175,420	142,832	開催支援サービス実績減による未払金減	-
	固定負債	25,576	30,310	33,246	退職給付引当金の増	-
	正味財産/純資産	1,383,618	1,345,881	1,357,577		-
	基本財産/資本金	1,057,648	1,049,830	1,045,183		-
	剰余金等	325,970	296,051	312,394	コロナの影響による事業の中止や延期による増	-
	運用財産	0	0	0		-
収支の状況	事業収益 (a)	1,344,928	1,376,374	1,092,615	9月～2月工事全館休館による施設利用料収入の減、企画事業の中止等による事業収益の減	1,503,546
	うち県支出額	884,472	961,739	1,014,157	全館休館指定管理料50524減＋コロナ対策補填28,712増、コロナ対策緊急エールプロジェクト事業分64,860・アーツカウンシル分9370の増	1,116,410
	(県支出額/事業収益)	(65.8%)	(69.9%)	(92.8%)		(74.3%)
	事業外収益 (b)	8,699	8,964	7,091	雑収入＋基本財産運用益	6,300
	うち基本財産運用益	7,692	7,735	6,040	地方債の満期に伴う利益減	5,600
	特別収益 (c)	1,000	0	0		0
	うち基本金取崩額	0	0	0		0
	収入計 (d=a+b+c)	1,354,627	1,385,338	1,099,706		1,509,846
	事業費用 (e)	1,361,673	1,415,258	1,083,363	9月～2月全館休館に伴う管理費減、企画事業の中止等に伴う事業費用の減	1,546,456
	うち人件費	189,785	183,101	190,583	アーツカウンシル分の増	276,964
(人件費/事業費用)	(13.9%)	(12.9%)	(17.6%)		(17.9%)	
事業外費用 (f)	0	0	0		0	
特別損失 (g)	0	0	0		0	
支出計 (h=e+f+g)	1,361,673	1,415,258	1,083,363		1,546,456	
収支差 (d-h)	-7,046	-29,920	16,343		-36,610	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

・公益事業のオリジナル文化プログラム事業や県内で文化プログラムが積極的に取り組まれるための環境整備事業の執行に当たり、過年度に公益目的事業会計で発生した剰余金である特定資金積立金等を計画的にかつ有効に活用している。

・緊急警戒宣言下での臨時休館時には、コロナウイルス感染症対策も含めて、業務運営と調整のうえ、職員の休業に取り組むとともに、厚生労働省の雇用調整助成金制度を活用するなど財源確保を行った。また、全館休館中は、必要な設備稼働や照明点灯などに注視し、経費削減に努めた。

・全館休館中に貸館利用の環境向上を検討し、展示ギャラリーの壁を補修する、利用者の多い1001会議室のカーペットの全面更新、WEB会議等での使用も含めて大型モニターの更新、貸館利用者の手続き等がスムーズに行えるようバックヤードにあった貸館事業課を2階に移設するなど改善を図った。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

--

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な運営努力を維持するとともに、収益の確保に努め健全な法人運営を継続し、過年度の公益目的事業会計の剰余金を特定費用準備資金として活用している。 ・財務的にも法人運営でも安定的に文化芸術の振興事業を実施できる体制を整えて、財団の設立目的である「県民文化の振興」を図り、静岡県文化振興基本計画で位置付けられた役割を担った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、コロナの影響による事業の中止や延期等の影響により収支は黒字決算であった。 ・コロナの影響は今後も引き続くことが予想されるため、支出削減や補助金等財源確保に努めつつ、特定費用準備資金等を活用し、積極的な事業展開に期待する。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
資金運用益の確保(H23)	○ 資金運用の基準を改正(H24)し、必要に応じて専門家から意見聴取するとともに平成30年度からは剰余金の短期定期預金を活用する等、安全かつ安定的な資金運用を実施している。	○ 安定した資金運用を行い、資金運用益を有効に活用している。

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>・本県の文化振興と交流促進のためのH29～R3(H33)までの5年間のグランシップ第4期指定管理事業計画を策定しているが、激変する社会環境に対応できる組織体制の確立に新たに取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ運営体制も安定した経営が確保できるよう、財団固有事業も含めて、企画事業の実施や貸館事業の積極的な営業活動などに取り組む。</p> <p>・新たに設置した「アーツカウンシルしずおか」は、まちや観光、国際交流、福祉、教育、産業など社会の様々な分野と文化芸術との協働を促進し、社会課題への対応や地域資源を活かした創造的な活動を支援することにより、文化芸術に関わる人の裾野を広げ、地域活性化を目指す。</p>	<p>・文化財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、設立以来、一貫して本県の文化振興の中核組織としての役割を担い、活動している。</p> <p>・R3からは「アーツカウンシルしずおか」が本格稼働したことで、文化芸術活動への支援が充実したため、従前の文化振興と両輪で、本県の文化の発展を支えていただきたい。</p> <p>・多様な施設利用の需要に柔軟に対応できるような施設運営、年齢・性別・国籍・障害の有無に関わらず参加できるような催事の開催といった、これまでの運営ノウハウを基盤とした更なる取り組みに期待したい。</p>

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>・社会環境が大きく変化する中で、幅広く県民が文化芸術に初めて触れる場づくり「はじめての劇場しずおか」として、上質で多彩な文化芸術体験を推進する。</p> <p>・グランシップ企画事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止・延期を余儀なくされたが、「新しい生活様式」や国や県のガイドラインに基づき感染防止策を徹底した上で、新たな手法も取り入れながら、事業を開催する。</p> <p>・子どもが文化に触れる機会を創出し、文化芸術への接点を県内で継続させるため、県内各地の公立文化施設や学校とコロナ対策の取り組みを含めて連携し、出前公演やアウトリーチを積極的に展開する。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインによる芸術配信は拡大したが、実演による魅力に触れる機会を得ることが難しい状態が続いている。</p> <p>・実演で感じられる音や振動などの臨場感は、オンラインには無いものがあり、子供のうちに経験することにも大きな意味があるので、令和2年度に実施された「あおぞらコンサート」のように屋外での催事や、アウトリーチにより東部や西部の子ども達が鑑賞機会を得やすくする取り組みは、是非積極的に継続していただきたい。</p>

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H30	R1	R2	R3	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	1	1	1	
うち県OB	1	1	1	1	
うち県派遣	0	0	0	0	
常勤職員数	34	33	34	41	アーツカウンシル部門設置に係る増
うち県OB	1	1	1	1	
うち県派遣	4	4	4	6	アーツカウンシル派遣2人増
県支出額	884,472	961,739	1,014,157	1,116,410	アーツカウンシル補助金の増
補助金	0	0	74,230	201,140	R2:エール①60,000+エール②4,860+AC9,370 R3:エール②55,140+AC146,000
委託金	884,472	961,739	939,927	915,270	R2:指定管理851,400+R1補填10,000+R2補填18,712 +こども委託59,815 R3:指定管理856,000+こども委託59,270
その他	0	0	0	0	
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	指定管理料の積算基礎となる職員数を基本として、計画的な定員管理を行っている。 なお、役員に関しては平成29年6月に定数を見直し、評議員9人、理事11人、監事2人とした。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員は公募により選考しており、県OBに限定していない。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	財団総務・文化・貸館部門は、平成25年度に県職員2人を削減し4人とし、アーツカウンシル部門もコーディネーターや事務職員には財団職員を主に配置し、県職員は2人として県派遣職員は必要最小限にとどめている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	県の文化振興施策を推進するためには、県と文化財団との連携が必要不可欠であり、県と文化財団との施策推進における一体性や情報の共有化のためには、県職員の派遣は必要であり、派遣職員は文化財団において十分な役割を果たしている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	文化財団に対する県からの支出金は、グランシップの指定管理料や県内の子どもたちが文化に触れる機会を創出するための委託費、アーツカウンシル事業の補助金等であり、本県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの運営管理や文化芸術の振興、文化芸術の力を活かした活動支援に必要な支出である。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	指定管理事業について、県による外部評価委員の事業評価を受けた。 実施時期：R2年7月21日 委員5名 公表の手法：県HP	・総合評価は、5点満点中、評価点「4.4 よく実施した」と判断された。 ・「上質」で「多彩」のモットーが成果に表れている。子供のうちに「上質」に接する機会を提供することを今後も続けてほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響によって、芸術文化への支出は厳しく、より収入率の低下は否めない。 そこで、量より質の向上に向けて、プロデューサー制度やスタッフの企画力向上と新たな層へのアプローチに期待する。 ・リアルな事業が制限される中、活動を止めずに、オンライン×文化事業の可能性を模索してほしい。
利用者アンケート	○	○	グランシップ貸館利用者に施設の使いやすさ、スタッフの対応等について、また企画事業の来場者に満足度、内容等について、アンケートを実施した。 【企画アンケートの集計】 ・実施時期：R2年4月～R3年3月 ・対象者：6,461人 ・回答者数：2,733人 【貸館アンケートの集計】 ・実施時期：R2年4月～R3年3月 ・対象者：1,493人 ・回答者数：貸館1,137人 ・公表の手法：グランシップHP（R2年度事業報告書を公表しており、その中に一部記載）	・コロナ禍において、久しぶりに生演奏をきけて楽しく興奮しました。脳が活性化しました。（ビッグ・バンド・ジャズ・フェスティバル） ・解説付きだったので、理解しやすく、情景をイメージしながら見るのができた。（能楽入門公演） ・ギター演奏とお話が全て良かった！！会場の響きも良くて素晴らしいマチネでした。（本と音楽の素敵な出会い～マチネの終わりに）
利用者等意見交換会	○	-	グランシップ貸館利用団体等による利用者会議を開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：R3年3月、参加者4団体 結果非公開理由：参加者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・高速通信環境やWi-Fiの整備をしてほしい。 ・搬入用エレベーターが1機しかなく、搬入時混雑する。
その他（モニター制度）	○	-	公募モニターによる企画事業の鑑賞後のモニター会議を年2回開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：R2年7月・12月、モニター11名 結果非公開理由：モニターから意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・事前レクチャーと合わせて鑑賞することで、初心者にとっては基本の理解ができ、効果的。文楽への好奇心が刺激され、演目を事前に調べる動機付けになり、実演の理解も深められ、きわめて充実したものとなった。（人形浄瑠璃文楽） ・作者自らが作った詩を作者の声で朗読すると、魂からの言葉をより強く感じるような気がした。詩は文字で読むよりも、言葉で発せられた時に、その人の個性や表現したいことがはっきり伝わってくるとわかった。（しずおか連詩の会）
その他（利用者の声）	○	-	館内に設置した用紙及びWEBページにより県民、利用者の要望、意見等を聴取した。 実施時期：R2年4月～R3年3月 意見数：15件 結果非公開理由：利用者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・連詩の会が良かった、こどもWCの様子も本催事のときに発表して欲しい。 ・催事に関するコロナ対策への意見も多く、各催事ホームページで詳しく説明するようになった。

○：実施している／公表している -：実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

- ・貸館利用者登録の手続きについて、紙ベースからWEB上の手続きのみで完了する手続きに見直した。
- ・貸館相談窓口をバックヤードにある3階事務室内から2階映像ホール横に移設し、施設利用環境が向上した。
- ・企画事業で対応が可能な場合は、WEB活用によるリモート参加に取り組んだ。